

川崎市新本庁舎整備事業  
条例環境影響評価方法書  
に関する説明会

次 第

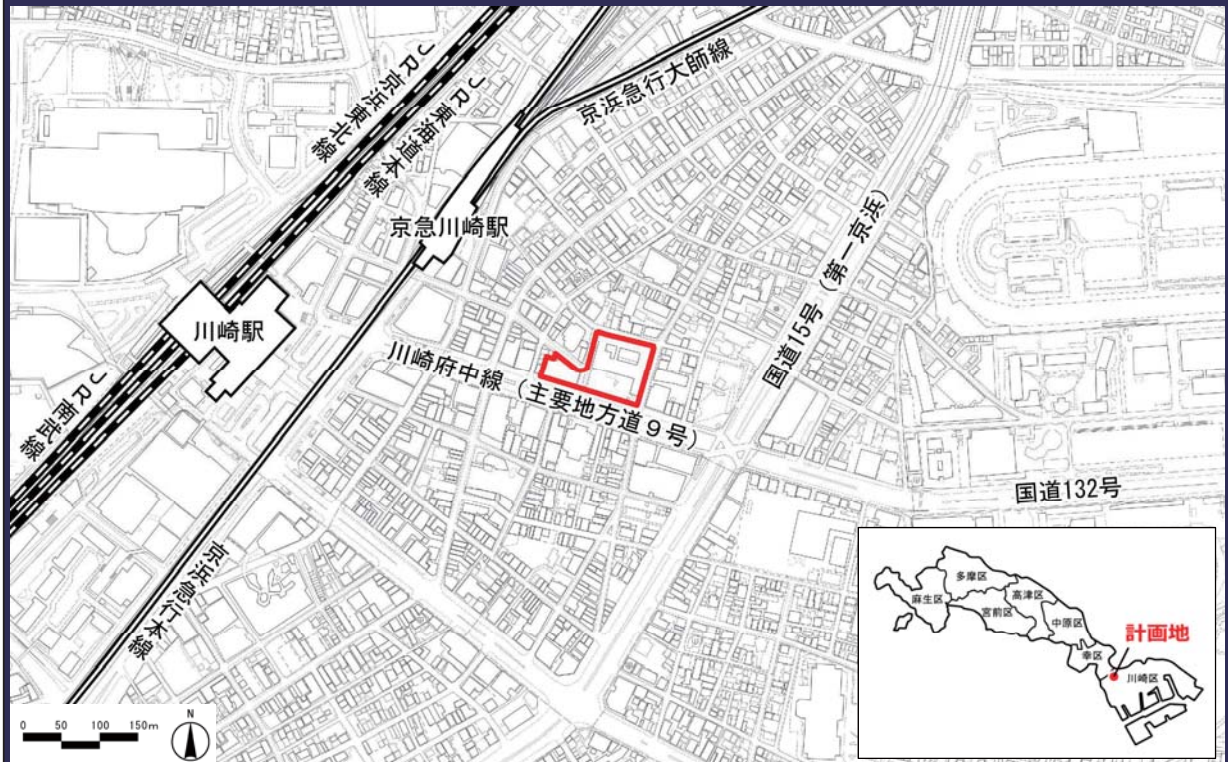
- 一、開会
- 一、出席者紹介
- 一、川崎市挨拶
- 一、川崎市新本庁舎整備事業の  
検討の経緯
- 一、条例環境影響評価方法書の  
概要説明
- 一、質疑応答
- 一、閉会

川崎市新本庁舎整備事業の  
検討の経緯

川 崎 市

# 計画地の位置

## ■ 川崎市役所本庁舎、第2庁舎の敷地を含む区域



# 既存庁舎の現状

- 本庁舎及び第2庁舎は、災害対策活動の中核拠点に必要とされる耐震性能を満たしておらず、特に本庁舎は大規模地震が発生した際に倒壊の危険性がある

本庁舎	平成28年2月 平成28年10月	全事務室の移転完了 本庁舎上屋の解体工事に着手 (防災対策の事業)
第2庁舎	平成26年10月 ～平成27年度	暫定利用のための耐震補強工事実施

- 床面積の不足などから、本庁機能が分庁舎や周辺の民間ビルに分散している



災害活動の中核拠点に必要とされる耐震性能を有する  
新たな庁舎を建設し、分散化している本庁機能を集約する

# 検討・取組の経緯

平成15年度	「本庁舎・第2庁舎耐震診断」実施 ⇒倒壊又は崩壊の危険性が高い
平成19年度	「川崎市耐震改修促進計画」策定
平成20年度	「本庁舎・第2庁舎緊急耐震補強工事」実施 ⇒倒壊又は崩壊の危険性がある
平成21年度	「包括外部監査」実施 ⇒平成27年度末までに耐震化対策を完了することが望まれる
平成22年度	「東日本大震災」発生 (H23.3.11)
平成23～ 24年度	「川崎市本庁舎等耐震対策検討委員会」設置 「本庁舎等耐震対策に係る調査・検討報告書」取りまとめ
平成25年度	「川崎市本庁舎・第2庁舎耐震対策基本構想検討委員会」設置 「川崎市本庁舎・第2庁舎耐震対策基本構想」策定 (H26.3)
平成26～ 27年度	「本庁舎等の建替えに関するアンケート」実施 「川崎市本庁舎等建替基本計画」の策定に向けた検討 「川崎市役所第2庁舎耐震補強工事」実施 「川崎市本庁舎等建替基本計画」策定 (H28.1)
平成28年度	「川崎市役所新本庁舎基本・実施設計業務委託」契約・着手 (H28.10)

# 川崎市本庁舎等建替基本計画

- 学識経験者と市民代表からなる検討委員会
- パブリックコメントを実施

## 本庁機能の集約

<現在>

本庁舎、第2庁舎、  
第3庁舎、第4庁舎、  
他複数の民間ビルに分散

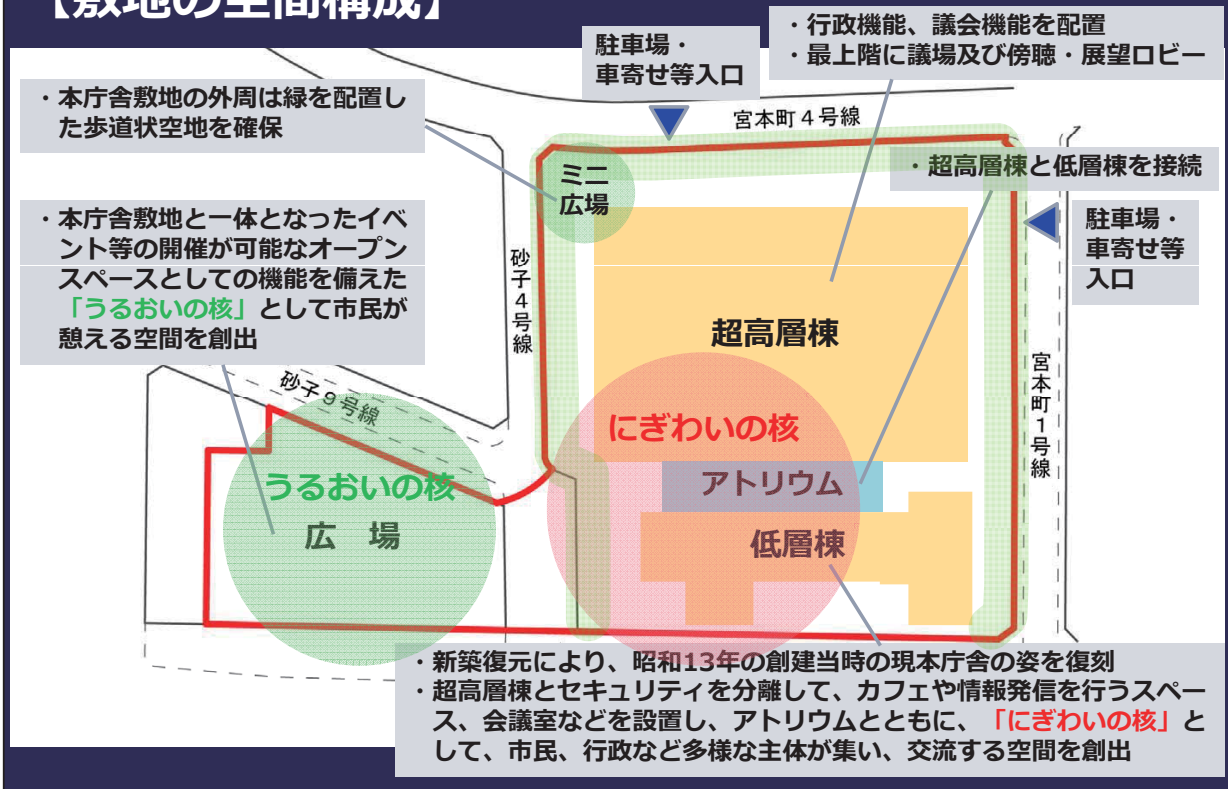


<新本庁舎整備後>

本庁舎、第3庁舎、  
川崎御幸ビルに集約

# 川崎市本庁舎等建替基本計画

## 【敷地の空間構成】



## 事業のスケジュール

注) 最短で事業が進捗した場合のスケジュールであり、今後、変更になる可能性がある。



# 川崎市新本庁舎整備事業 条例環境影響評価方法書の 概要説明

川 崎 市

## 説明内容

1. 環境影響評価等について
2. 指定開発行為の概要
3. 環境影響評価項目の選定
4. 選定した項目についての調査、予測及び評価の手法
5. 条例環境影響評価方法書の縦覧、意見書の提出

# 環境影響評価等について

## 環境影響評価とは

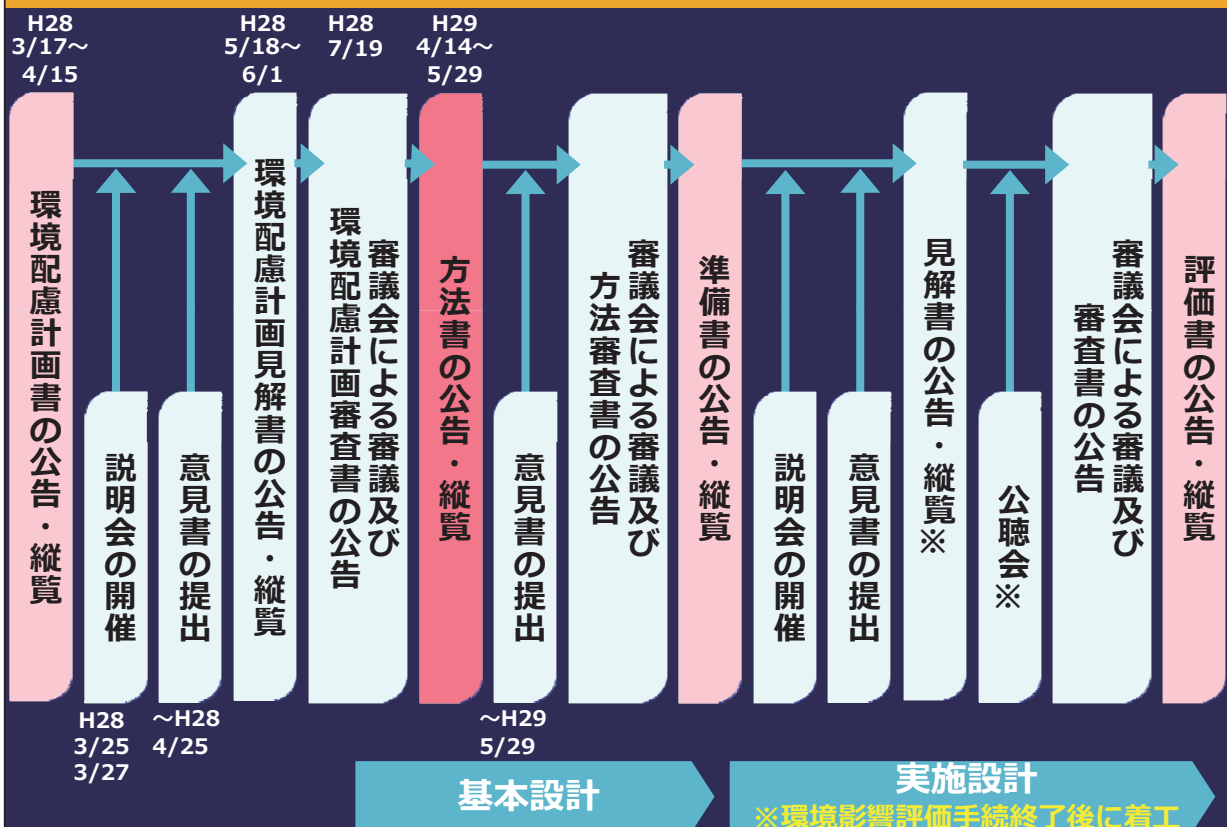
大規模な工事や開発事業が周辺の環境に  
どのような影響を及ぼすかについて  
事前に調査、予測、評価

# 川崎市の環境影響評価等

## 「川崎市環境影響評価に関する条例」

- 高層建築物の新設（第1種行為）  
高さ100m以上、かつ、延べ面積50,000m<sup>2</sup>以上
- 大規模建築物の新設（第2種行為）  
延べ面積50,000m<sup>2</sup>以上、100,000m<sup>2</sup>未満

## 環境影響評価等の手続の流れ



# 指定開発行為の概要

## 計画地の位置

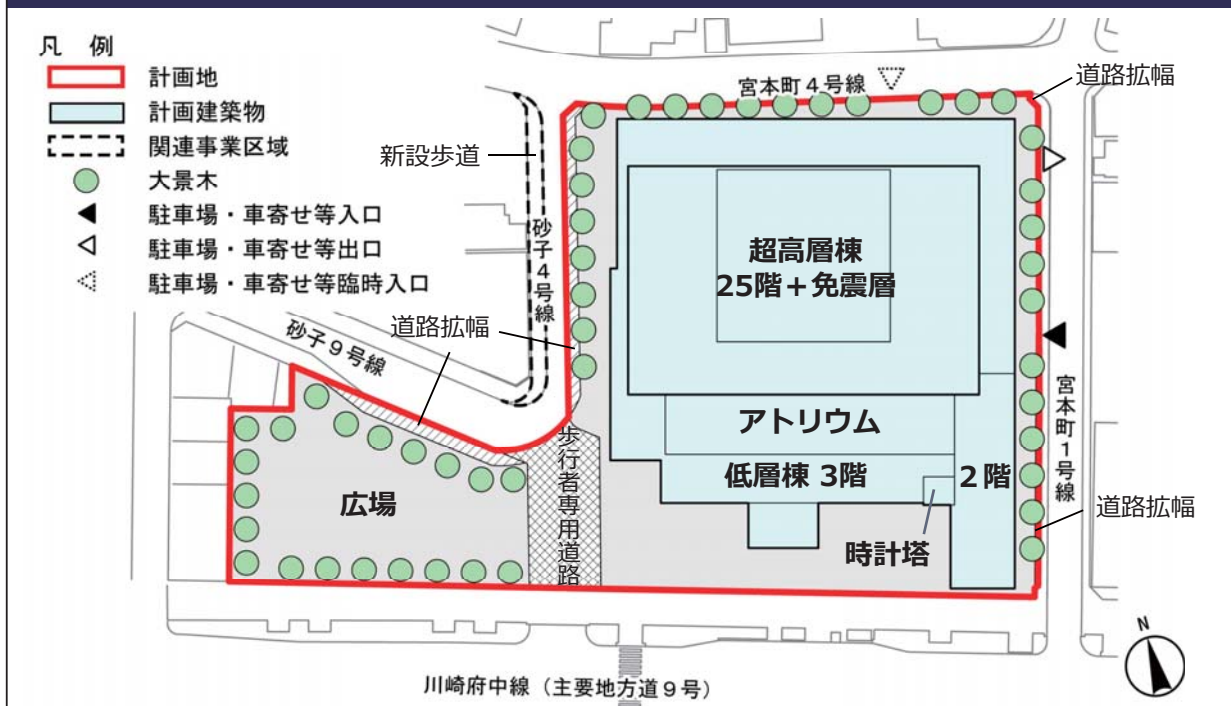
### ■ 川崎市役所本庁舎、第2庁舎の敷地を含む区域





# 土地利用計画

## ■「基本計画」及び環境配慮書計画書の予測・評価結果を踏まえた計画案に基づく方法書の作成

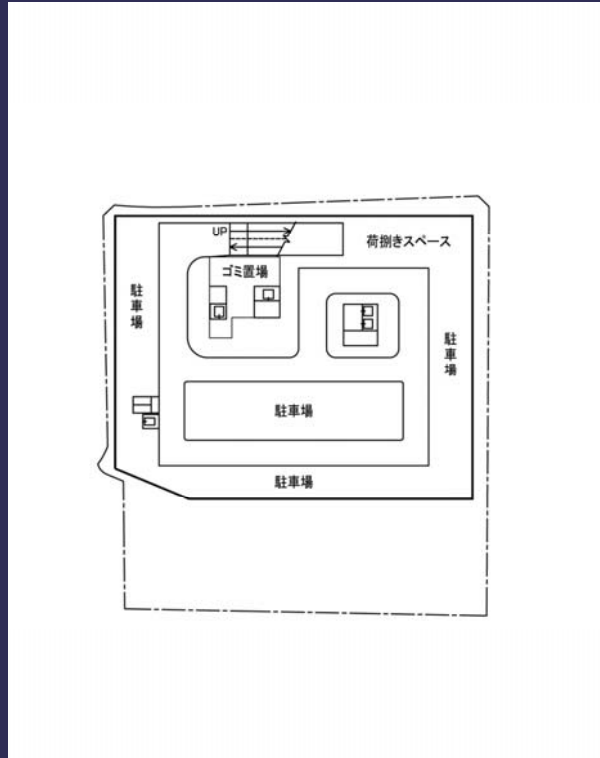


# 建築計画

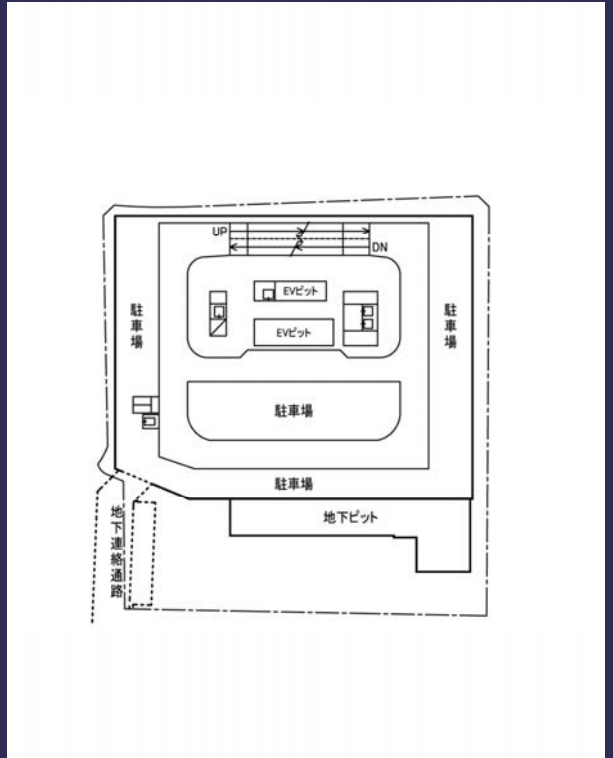
開発区域面積	約7,830m <sup>2</sup> ( 新本庁舎敷地 : 約6,000m <sup>2</sup> 第2庁舎跡地広場 : 約1,310m <sup>2</sup> 道路等 : 約 520m <sup>2</sup> )
建築面積	約4,345m <sup>2</sup> (建ぺい率 約73%)
延べ面積	約62,100m <sup>2</sup>
容積対象床面積	約53,000m <sup>2</sup> (容積率 約884%)
建物高さ	塔屋等を含む最高高さ約116m以下
建物階数	地上25階+免震層、地下2階
主要用途	庁舎 (事務所)
駐車台数	約160台
駐輪台数	約80台

# 各階平面図

## 地下2階

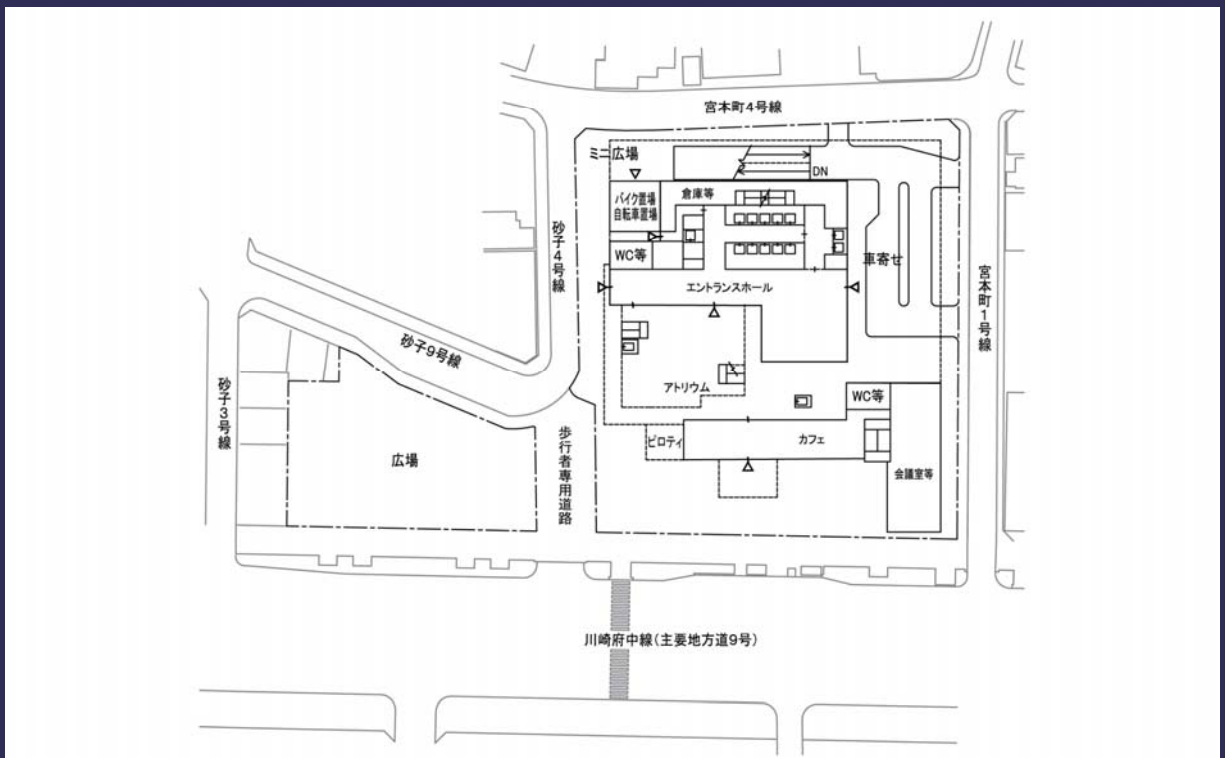


## 地下1階



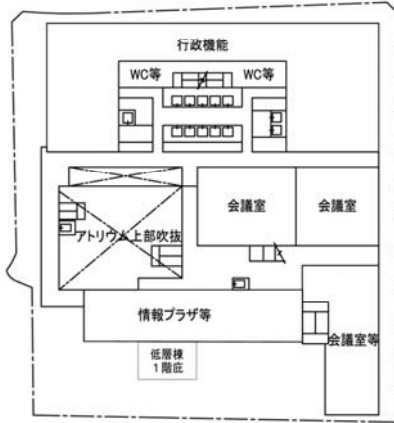
# 各階平面図

## 1階

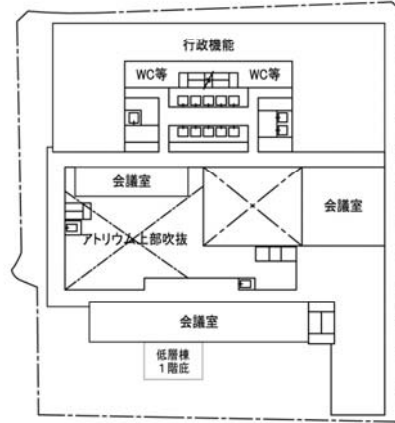


# 各階平面図

## 2階

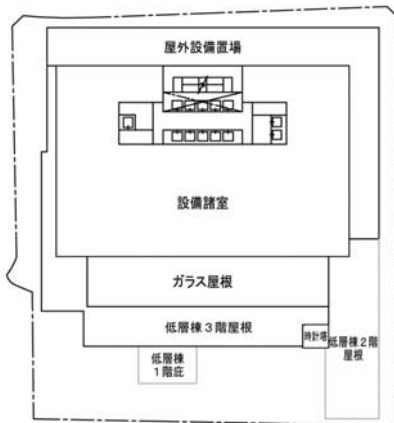


## 3階

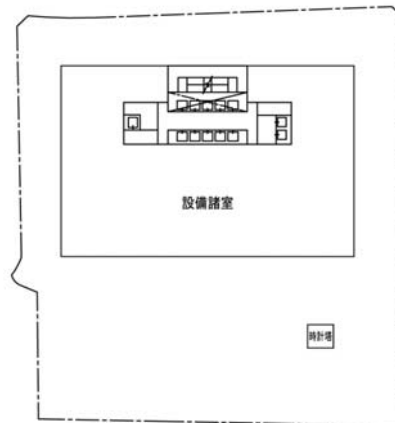


# 各階平面図

## 4階

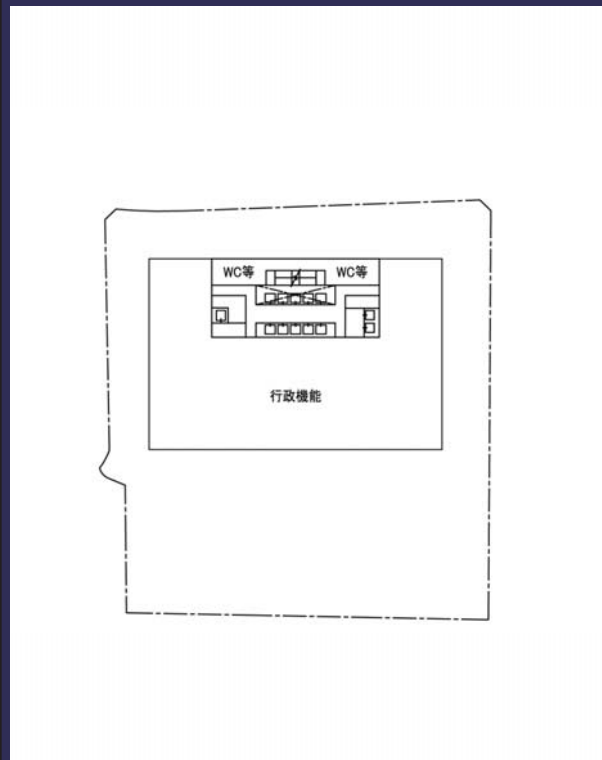


## 5階

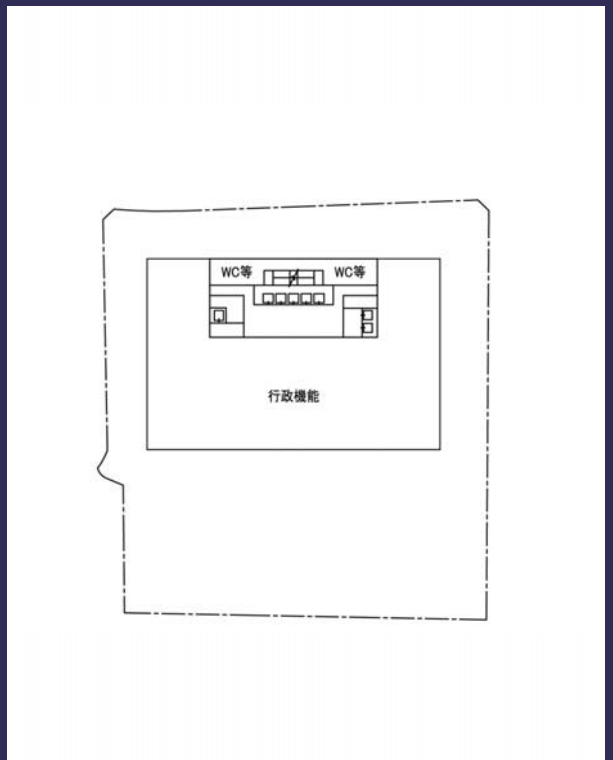


# 各階平面図

## 基準階（6～13階）

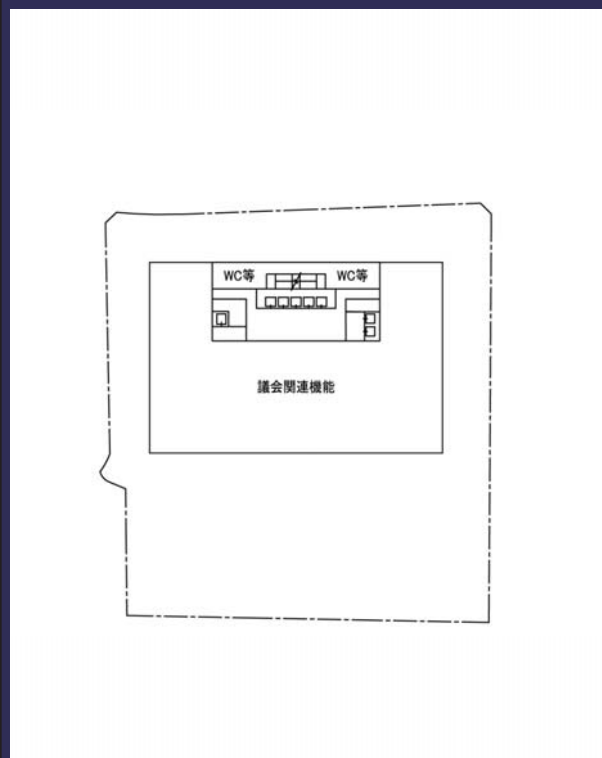


## 基準階（14～21階）

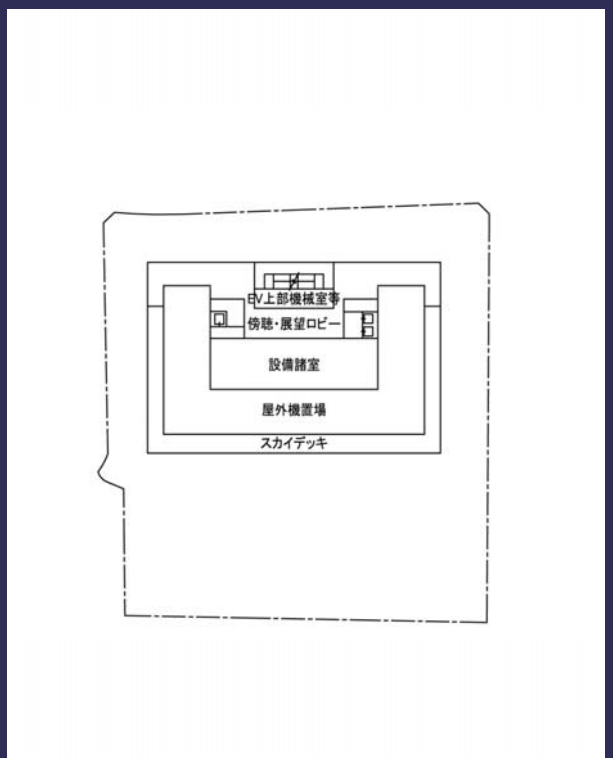


# 各階平面図

## 22～24階

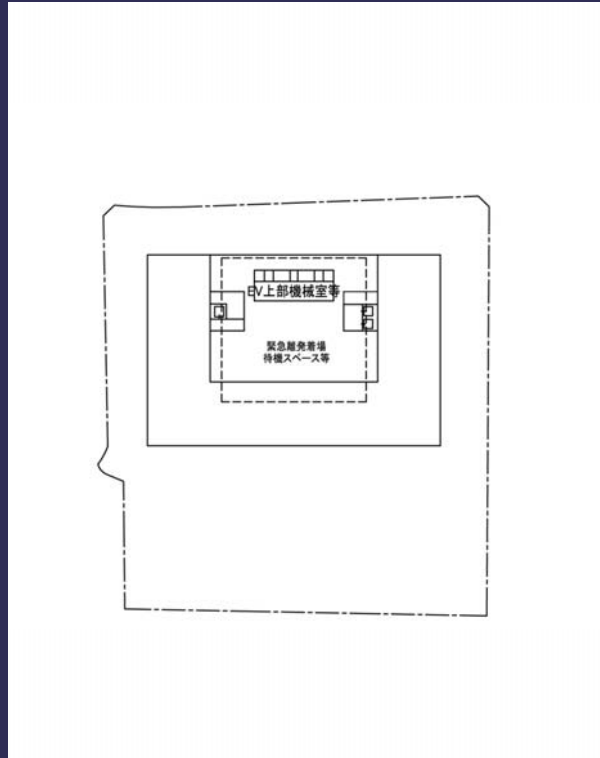


## 25階

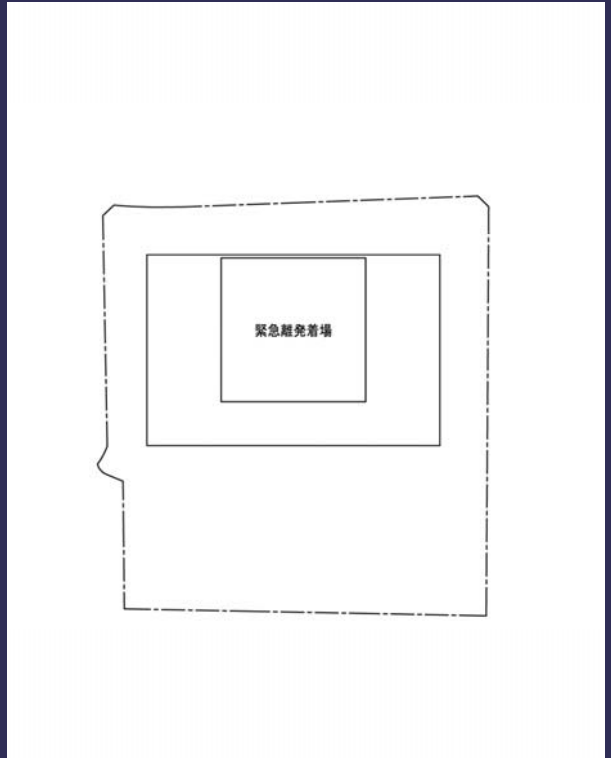


# 各階平面図

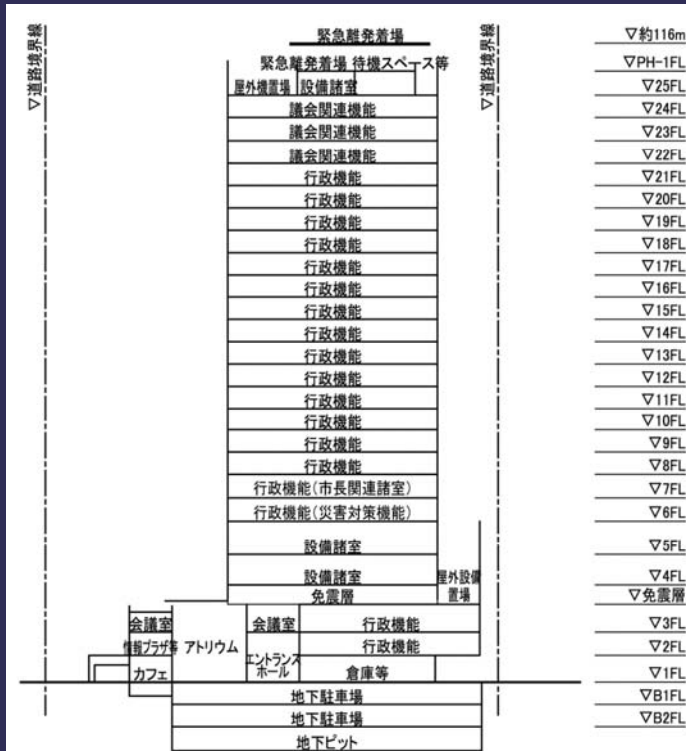
## P H階



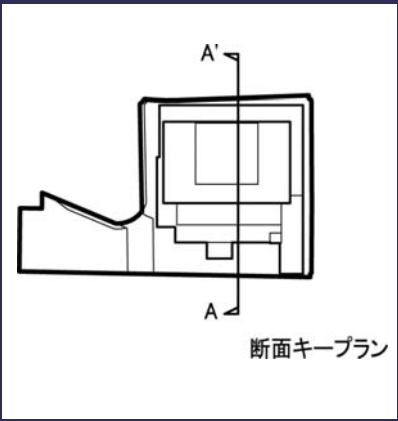
## 屋上



# 建築計画

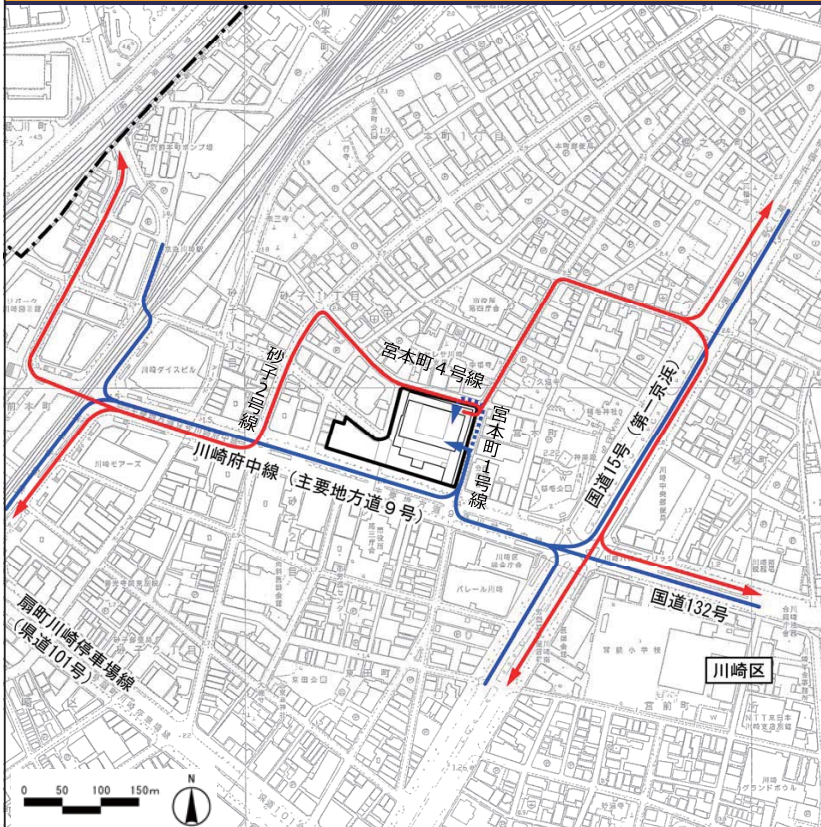


- ▽約116m
- ▽PH-1FL
- ▽25FL
- ▽24FL
- ▽23FL
- ▽22FL
- ▽21FL
- ▽20FL
- ▽19FL
- ▽18FL
- ▽17FL
- ▽16FL
- ▽15FL
- ▽14FL
- ▽13FL
- ▽12FL
- ▽11FL
- ▽10FL
- ▽9FL
- ▽8FL
- ▽7FL
- ▽6FL
- ▽5FL
- ▽4FL
- ▽免震層
- ▽3FL
- ▽2FL
- ▽1FL
- ▽B1FL
- ▽B2FL



A-A'断面図

# 自動車動線計画図

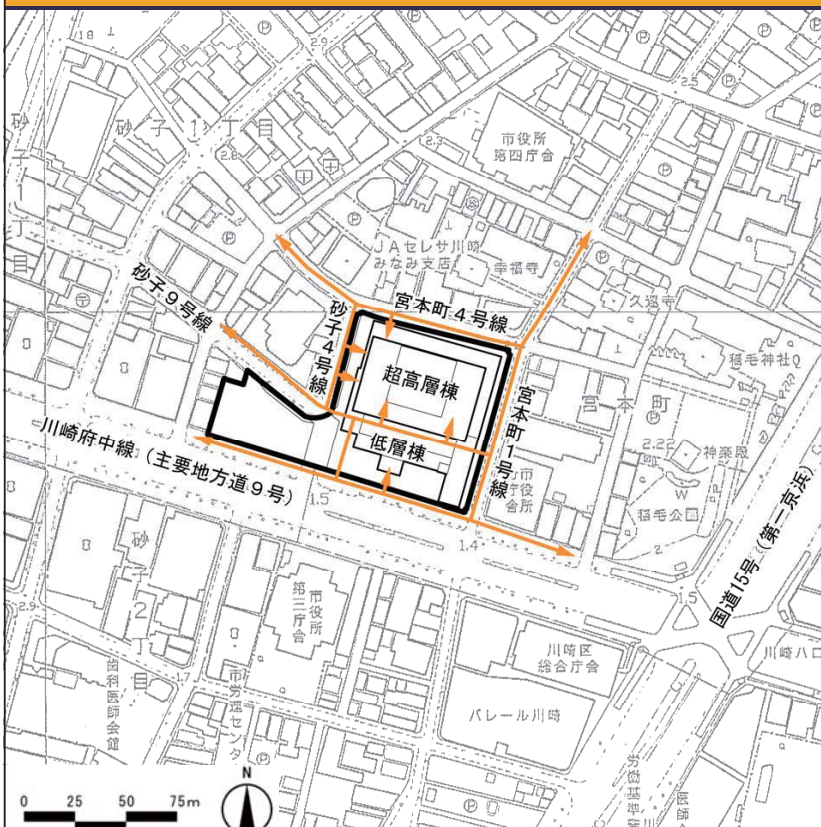


- 計画地
- 走行経路 (集中)
- 走行経路 (発生)

注)

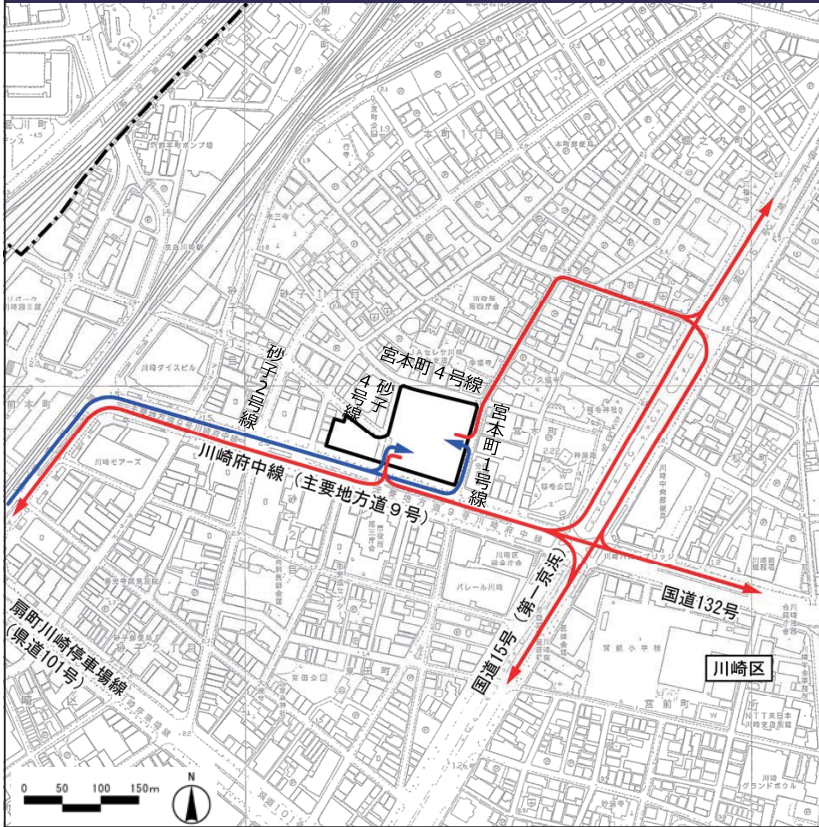
- 臨時入口を利用する際の経路

# 歩行者動線計画図



- 計画地
- ↔ 歩行者動線

# 工事用車両の主な走行経路 (新本庁舎敷地工事)



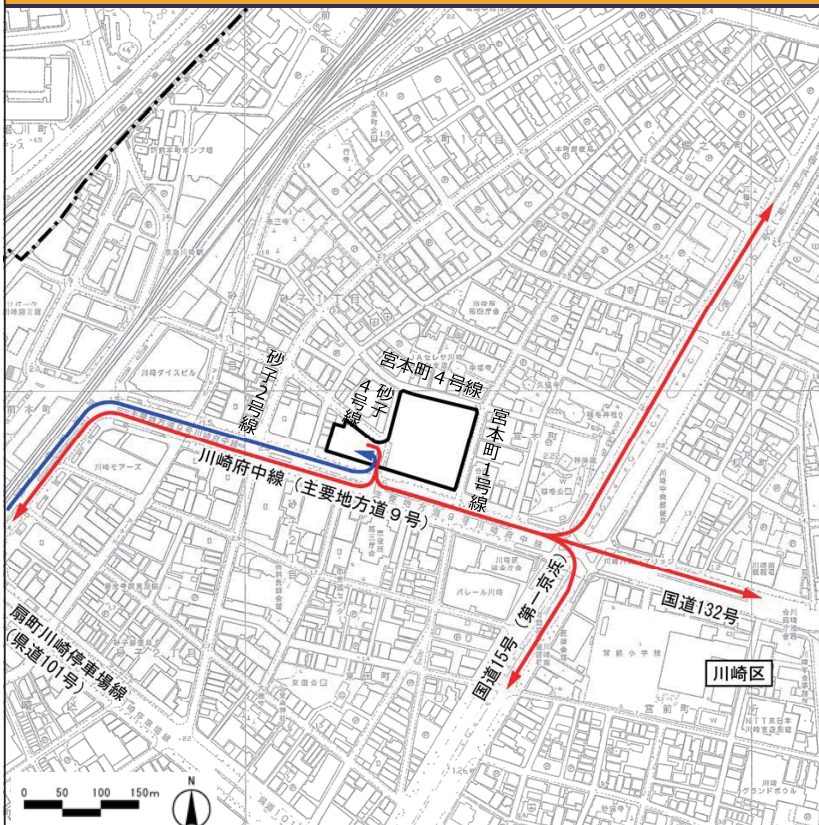
- 計画地
- 走行経路 (搬入)
- 走行経路 (搬出)

## 【工事期間】

平成31年度  
～平成34年度

※最も速く事業が  
進捗した場合

# 工事用車両の主な走行経路 (第2庁舎敷地工事)



- 計画地
- 走行経路 (搬入)
- 走行経路 (搬出)

## 【工事期間】

平成35年度

※最も速く事業が  
進捗した場合

# 環境影響評価項目の選定

## 環境影響要因の抽出

対象時期	環境影響要因の抽出	
工事中	建設機械の稼働	
	工事用車両の走行	
	工事の影響	
供用時	施設の存在	緑の回復育成
		高層建築物の存在
	施設の供用	施設の供用
		施設関連車両の走行
		冷暖房施設等の設置
	歩行者の往来	



# 環境影響評価項目の選定 (1/2)

※地域環境管理計画：環境影響評価を実施する上での基本的な指針として、望ましい地域環境像、環境影響評価項目、地域別環境保全水準等を定めたもの

環境影響要因 環境影響評価項目		工事中			供用時					
		建設機械の稼働	工事用車両の走行	工事の影響	施設の存在		施設の供用			
					緑の回復育成	高層建築物の存在	施設の供用	走行	施設関連車両の設置	冷暖房施設等の設置
大気	大気質	●	●					●	●	
土	土壌汚染			●						
緑	緑の質				●					
	緑の量				●					
騒音・振動 ・低周波音	騒音	●	●					●	●	
	振動	●	●					●		
廃棄物等	一般廃棄物						●			
	産業廃棄物			●						
	建設発生土			●						

# 環境影響評価項目の選定 (2/2)

環境影響要因 環境影響評価項目		工事中			供用時					
		建設機械の稼働	工事用車両の走行	工事の影響	施設の存在		施設の供用			
					緑の回復育成	高層建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	冷暖房施設等の設置	歩行者の往来
構造物の影響	景観（景観、圧迫感）					●				
	日照阻害					●				
	テレビ受信障害					●				
	風害					●				
地域社会	地域交通	交通混雑、交通安全	●					●		●
温室効果ガス							●			

# 選定した項目についての 調査、予測及び評価の手法

## 調査の手法

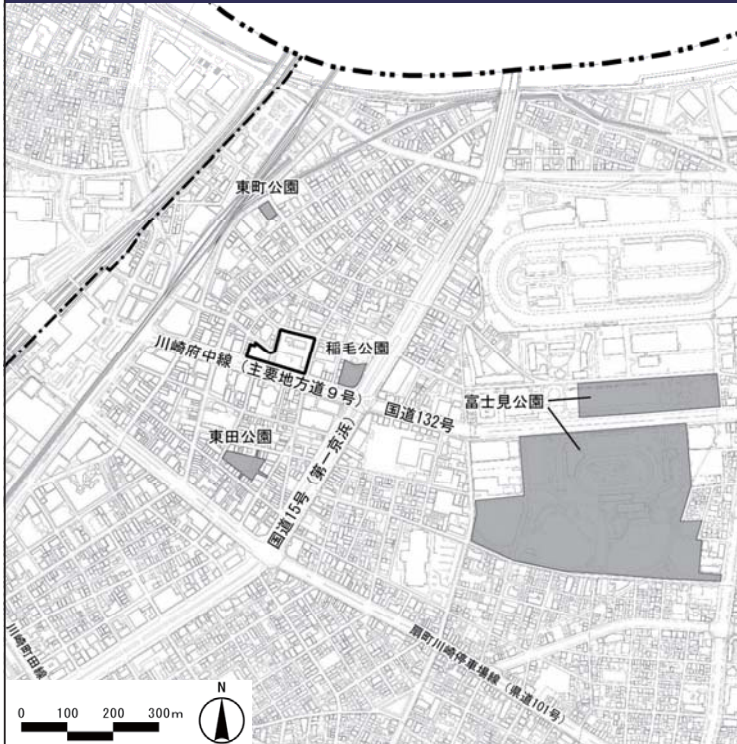
調査は、予測及び評価を行うための資料を得ることを目的として、計画地及びその周辺における環境の現況や関係法令等による基準等について、

- 既存資料調査
- 現地調査

により行う

# 調査の手法（現地調査）

## 緑（緑の質、緑の量）の調査



□ 計画地

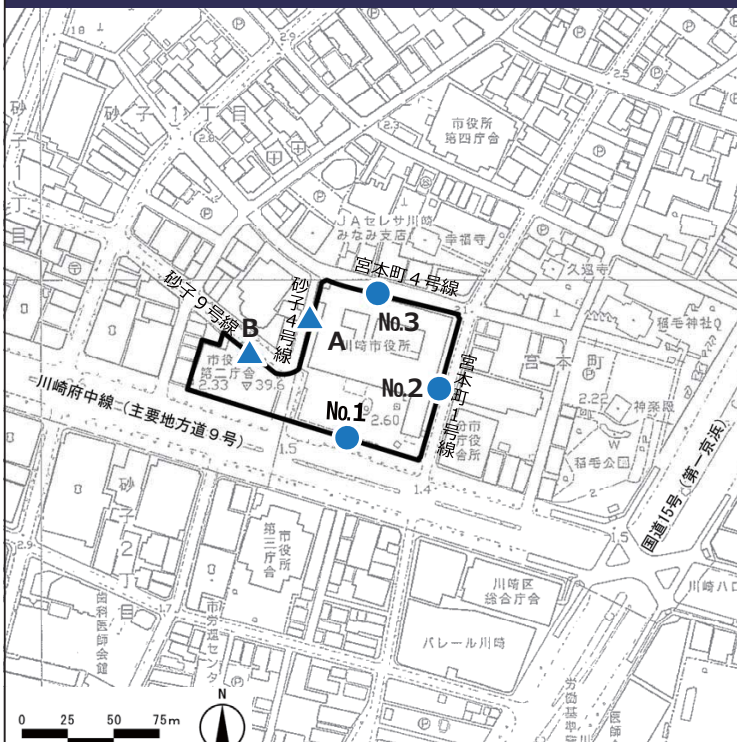
■ 計画地周辺の調査地点

- 【計画地内】 1季×1回
- ・現存植生状況、生育状況（樹種、樹高、本数、樹木活力度等）
  - ・緑被の状況

- 【計画地周辺】 1季×1回
- ・生育状況（樹種、樹高、本数、樹木活力度等）

# 調査の手法（現地調査）

## 騒音・振動の調査



□ 計画地

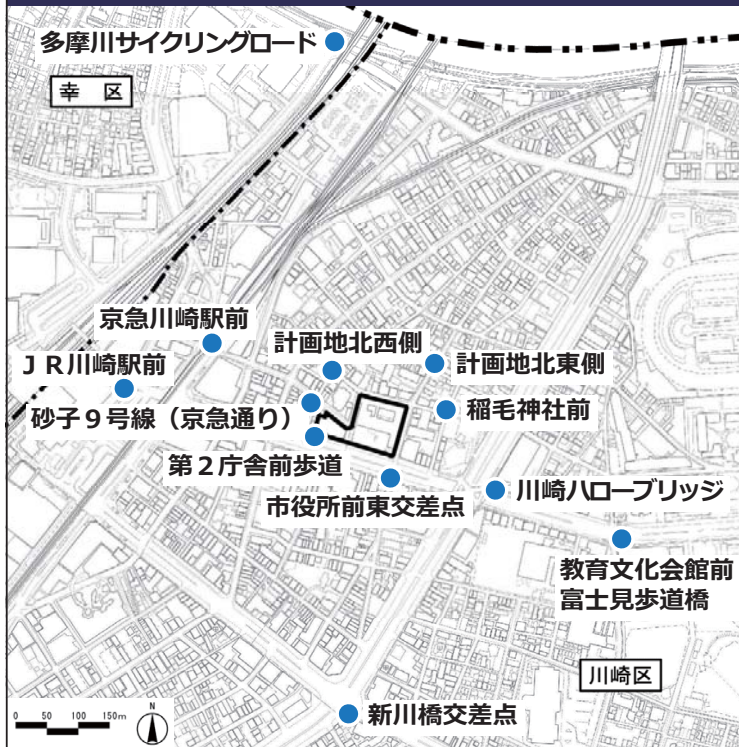
▲ 環境騒音・振動調査地点 (A、B)

● 道路交通騒音・振動調査地点 (No.1～No.3)

平日×1回

# 調査の手法（現地調査）

## 景観（代表的な眺望）の調査



- 計画地
- 代表的な眺望地点からの景観の調査地点（12地点）

# 調査の手法（現地調査）

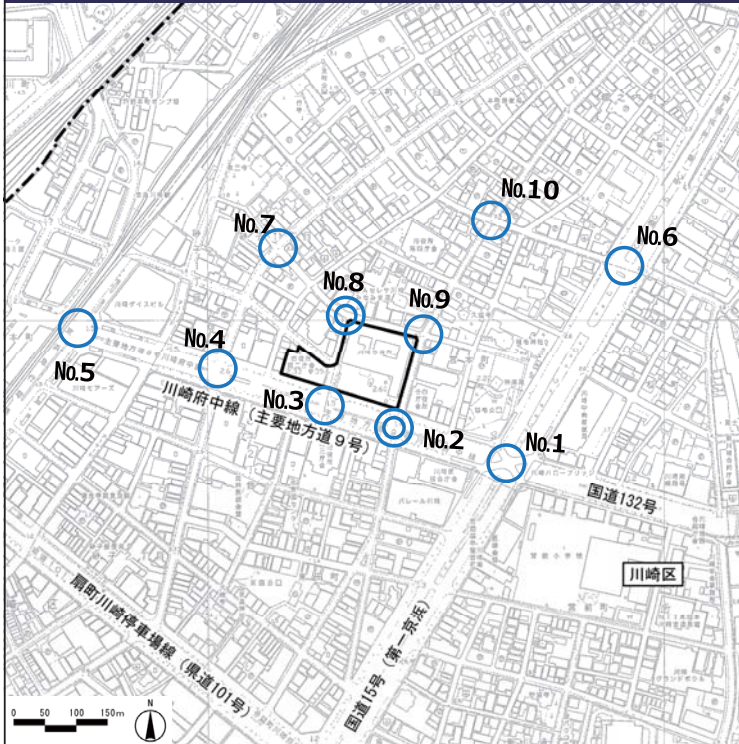
## 景観（圧迫感）の調査



- 計画地
- 圧迫感の調査地点（5地点）

# 調査の手法（現地調査）

## 地域交通（自動車交通量）の調査

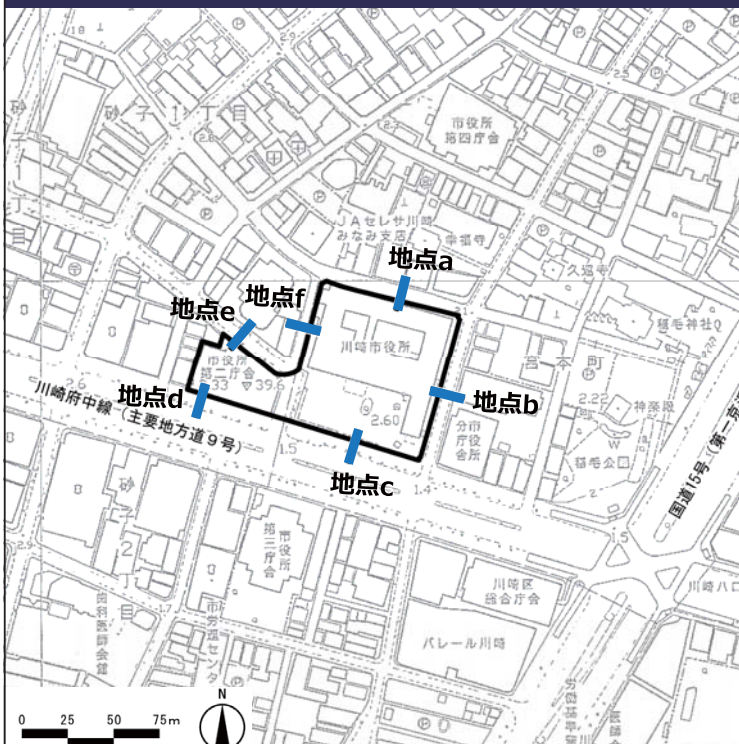


- 計画地
- 自動車交通量調査地点（12時間）
- 自動車交通量調査地点（24時間）

平日×1回

# 調査の手法（現地調査）

## 地域交通（歩行者交通量）の調査



- 計画地
- 歩行者交通量調査地点（12時間）

平日×1回

## 予測の手法

### 1) 計算やシミュレーションなどにより予測する方法

- ・大気質 ・騒音 ・振動 ・日照障害
- ・テレビ受信障害 ・風害 ・地域交通（交通混雑）

### 2) 調査結果・事業計画・類似事例などにより予測する方法

- ・土壌汚染 ・緑の量、緑の質
- ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 ・建設発生土
- ・地域交通（交通安全） ・温室効果ガス

### 3) 合成写真など視覚的な表現により予測する方法

- ・景観（景観、圧迫感）

## 評価の手法

### ■ 環境への影響の回避・低減の観点

本事業の実施による影響を低減させる対策等について、その内容を明らかにし、評価の条件とする

### ■ 評価の手法

「地域環境管理計画」に定められる地域別環境保全水準等を参考に設定する環境保全目標を評価の指標とし、環境への影響の回避・低減の観点の内容及び計画地周辺の地域特性を勘案して評価する

※地域環境管理計画：環境影響評価を実施する上での基本的な指針として、望ましい地域環境像、環境影響評価項目、地域別環境保全水準等を定めたもの

# 条例環境影響評価方法書の 縦覧、意見書の提出

## 条例環境影響評価方法書の縦覧、意見書の提出

縦覧場所	川崎区役所、幸区役所、環境局環境評価室 川崎市ホームページ
縦覧期間	平成29年4月14日（金）～5月29日（月） 午前8時30分から午後5時まで（土曜日、日曜日及び祝日は除く） ※幸区役所では、第2・第4土曜日の午前8時30分から 午後0時30分も縦覧を行います。
意見書の 提出期限	平成29年5月29日（月） （郵送の場合は、平成29年5月29日消印有効）
意見書の 提出先	川崎市環境局環境評価室（郵送又は持参に限る） 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

# お問い合わせ先

## 川崎市総務企画局本庁舎等建替準備室

**所在地：川崎市川崎区東田町5番地4**

**電話：044-200-0281**

(午前8時30分から午後5時まで/  
土曜日、日曜日及び祝日は除きます。)